

生徒指導の機能をいかす道徳学習指導案

5 学年

1、主題名 「あっていいこと いけないこと」

2、指導観

(1) 児童について

本学級の児童は、素直で元気な面が見られる。4月は、担任を玄関に立って待ち、進んで気持ちのよいあいさつをしてくれる男女の姿が見られた。しかし、全体的には、どちらかというところ、「自己表現」が苦手、かつ「後ろ向き」な傾向もあり、それが学習・生活両面に色濃く反映されている。

学習面では、「知的好奇心」に乏しく、学習の土台がなかなか築きにくい。

生活面では、「規範意識」が低い、と感じることがあまりにも多く、様々なことがなかなか定着しづらい。

一部の児童に著しくその傾向が目立つのだが、それが全体に大きな影響を及ぼしていることが多い。

このようなことから、「善悪の判断力」と「実行力」はもとより、何とんでも、「自分で考える力」が不足し、最も求められている、と痛感する。

(2) 教材について

本教材「あっていいこと いけないこと」は、児童にとって身近な事柄から社会的な問題に至るまで、「あっていいこと」か「あってはいけないこと」か、まず二者択一に、児童自らが考えて、「自分としての答え」を出せるようにしたものである。

中には、一概には「善」と「悪」には分けられない問題も、わざと盛り込まれている。

そこで、「自分としての考え」を出すに至った「理由」は何かを明らかにすることは、今後の「行動の判断基準」となるものを意識させ、日常の無目的・無意識な生活行動を改めさせる一歩になるものとする。

このようなことから、これらの「問題」に対して「自らの答え」を出すために「考える」機会を与え、交流し、全体でも話し合うことは、本学級の児童にとって非常に意義のある題材である、と考える。

(3) 方法について

授業にあたっては、まず、簡単な事例をクラス全体で検討し、区別の仕方を理解させる。

その上で、カードに記載された「事例」について、個々人がしっかり考え、「自分としての考え」を持てるようにするために、グループごとで、自由に意見を言える機会を持てるようにする。

また、「しっかり考えさせる」ために、必ず、「理由・根拠」まで考えるよう、指示する。

このことにより、一人ひとりが、集団に埋没せず、しっかり「自分の考え」を持って、人権

尊重と反差別の視点を持てるようにする。そして、実際の生活に、「責任」持って向かえるようにしたい。

3、単元目標

- 小グループの中で、他者の意見をしっかり聞き、自分の意見を言えるようにする。
- 「あってはいけないこと」に気づき、人権尊重と反差別の視点を持てるようにする。
- 自分の生活をふりかえり、責任ある行動ができるようにする。

4、生徒指導の視点に立った単元の工夫

- 自己存在感
グループの中で、友達との関わり合いの中で自分の考えを持ち、そのよさを承認してもらい、生活の中で生かしていけることに気づくことができるようにする。
- 共感的人間関係
グループの中で、自由に自分の考えを出せるようにし、また友達の影響も聞きながら、そのよさを認め、共によりよい関係を築いていけるような場の設定をする。
- 自己決定
グループの中で、一人ひとり自分の考えを理由を明らかにして、結論（答え・意見）を出せるように、場の設定をする。

5、単元計画

1時間

6、本時 平成19年12月6日（木） 第5校時 5年3組教室にて

7、本時目標

- 小グループの中で、他者の意見をしっかり聞き、自分の意見を言えるようにする。
- 「あってはいけないこと」に気づき、人権尊重と反差別の視点を持てるようにする。
- 自分の生活をふりかえり、責任ある行動ができるようにする。

8、規範意識を高めるための本時授業の工夫

- 規範意識を高めるための本時の価値
本教材でのねらいは、児童の身近な生活や社会に存在する「具体的な事例」を「問題」として一人ひとりに意図的に考える機会を設け、その理由を明らかにすることで「あっていいこと」と「あってはいけないこと」の基準を明確にし、今後の生活において、感覚的な判断ではなく、行動の規範の基礎として意識づけていくようにするところにある。
- 自己存在感をもたせるための工夫
はじめにグループの中で自由に自分の考えを持ち、出し合う機会を設け、そのよさを承認し

もらうような意見交流の場を設定するようにする。

○ 評価の工夫

学習を通して、グループ内ではじめに持った「自分の考え」をもとに、全体で「あっていいこと」「あってはいけないこと」に分かれる理由をもとに、「基準」を話し合った後、「はじめの自分の考え」がどう変わったか、「今日の学習で」に記入させる。

9、本時指導の考え方

本時学習では、小グループの中で、様々な事例について自分の考えを理由を明らかにしながら出し合い、さらに全体の場でも再度話し合うことで、考えの根拠となる「理由」から、明確な「判断のもととなる基準」を導き出し、今後の生活の場において、人権尊重と反差別などの視点を持って、「責任ある行動」ができるようにすることをねらいとしている。

はじめに、練習として身近な例を全体で考え、カードの区別の仕方を理解させる。

次に、小グループで15枚のカードに記載されている「問題」について考えを出し合い、その理由も話し合うようにする。

さらに、全体で個々の「問題」について考えを出し合いながら分類し、その理由も話し合いたい。

その際、「あっていいこと」と「あってはいけないこと」のそれぞれの特徴を話し合い、全員で確認したい。

最後に、振り返りカードに、今日の話し合いをもとに、「はじめの自分の考え」と「今の生活」について振り返らせ、これからの生活に生かせるようにしたい。

10、準備

教師…「あっていいこと」「いけないこと」の大型カード15枚（板書用）

児童…「あっていいこと」「いけないこと」の児童用小カード15枚（グループに1セット）

ワークシート（振り返りカード）

11、本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	生徒指導の視点に立った支援
<p>1、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あつていいことといけないうことについて考え、話し合おう</p> </div> <p>2、グループ内でカードを読み上げ、そのカードが「あつていいこと」なのか、「いけないうこと」なのか、話し合い、分類する。</p> <p>3、各グループから「あつていいこと」と「いけないうこと」の特徴を発表する。</p> <p>4、「どちらともいえないカード」について再検討する。</p> <p>5、「今日の学習で」を書く。</p>	<p>○「あつていいこと」と「あつてはいけないうこと」について簡単な事例をクラス全体で検討し、カードの区別の仕方を理解することができるようにする。</p> <p>○自分なりの考えを明確にする。【自己決定】 【規範意識】</p> <p>○理由を明確にする。【自己決定】</p> <p>○自由に意見を言えるように、グループ内での場を保障する。【自己存在感】【共感的 人間関係】</p> <p>○どうしてもグループ内で意見が一致しないカード、判断が難しいカードは「どちらともいえないカード」とする。</p> <p>○子どもの発表を整理して、板書しながら、 「あつていいこと」… 身体的特徴・好み・文化など 「あつてはいけないうこと」… 人種・性別・職業・生まれなどによる不平等 などに気をつけるようにする。【規範意識】</p> <p>○「あつてはいけないうこと」と「いけないうこと」の特徴を全員で確認した上で再検討する。 【規範意識】</p> <p>○今日の学習を多くの子どもにさえ、色々な考えがある中で、「あつていいこと・いけないうこと」があるんだ、ということについての理解を深めさせる。自分の今の生活についても振り返りをさせ、これからの生活に生かせるようにする。【規範意識】【自己決定】</p>

12、成果と課題

最後の振り返りでは、子ども達は、『『あっていいこと』より、『あってはいけないこと』の方が多くて、それは私達が今やっていることだと思い、反省しています』『今日の学習で、今まで、さあ、どうなのかな?とっていた事がはっきりしたのでよかった』『判断しても実行していないことがあったなと思いました』『『あっていいこと』と『わるいこと』をこれからは考えて行動しようと思いました』など、今までの生活を振り返ることができ、今後の生活に生かそうという児童が多かった。

しかし、中には、児童には難しい「問題」もあった。また、振り返りカードの今少しの工夫が必要。

13、資料

「あっていいこと」「いけないこと」の児童用小カード15枚